

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

言語文化

藤田尊潮教授

『パンセ：定本 上・下巻（講談社文庫）』

パスカル 著，松浪信三郎 訳注，

講談社，1971



年齢 60 を過ぎると、自分の棺になにを入れて燃やしてもらうか考えることがある。

この秋に死者となった友の棺には、ヘーゲルの『精神現象学』を入れた。加藤周一の棺の中の 3 冊のうちの一冊はフランス語版『聖書』だった。

若い頃から手元にあった本の一つにパスカルの『パンセ』がある。付箋がたくさん貼ってある。自分ながら幾度も読み返したことはわかっているが、いつどこでその付箋を貼ったのかは今となっては定かではない。

それでは捲ってみよう、ちょうど手に触れたところを。たとえば、

「人間の偉大」「生まれながらの不幸」「しかしそれは考える葦である」「神を知らずに自己の悲慘を知ることは、絶望を生む」

かつてどのような時にこれらを紐解いたのかは忘却の彼方だ。しかしながら、自分が死して後の静寂のうちにパスカルとともに思索ができればと思う昨今である。

『愛人（ラマン）』

マルグリット・デュラス [著], 清水徹 訳

『世界文学全集 1-4』池澤夏樹 個人編集

（河出書房新社，2008）所収



朽ちそうな家に棲むものは、自らが朽ちてゆくことを知っているのか。

『作家の家 創作の現場を訪ねて』を手にとったわたしの目を虜にしたのは、マル

グリット・デュラスの田舎の家だった。

かつてミッテラン元仏大統領をはじめとするレジスタンス運動の会合が秘かに行われていたパリの家の佇まいは知っていた。わたしがパリを訪れると必ず通うビストロの向かいにある。彼女を記念したプレートもある。

デュラスの田舎家は、今にも朽ち果てそうで、西洋の永遠を希求する思いよりは、東洋の諸行無常を表すかのように見えた。

例えば、その家の一角の本棚に並べられた本はどれも傾いでいて、滅ぶことを待っているかのようだ。

デュラスの『愛人（ラマン）』は、ベトナムでフランス人が東洋と出会って、その生涯に決定的な刻印を刻まれた出来事が記されている。

デュラスの家にベトナムの風が吹いている。

登録待ち

『プレヴェール詩集（岩波文庫；37-517-1）』

プレヴェール [著], 小笠原豊樹 訳，岩波書店，2017



思い出すんだ バルバラ
忘れてはいけない
幸せな君の頬に
あの幸せな街に 降る
賢く 幸せな雨を
造船所の上に
ウェッサン船の上に 降る
あの海の雨を
ああ バルバラ
なんて愚かなんだ 戦争は
君は今どうなっただろう
あの鉄の雨と
血の網の火の雨の下で

（藤田訳）

この詩は 1946 年の『言葉』という詩集に収められている「バルバラ」という詩の一節です。この詩はブルターニュ地方の都市プレストが舞台ですが、その街は第二次世界大戦で破壊されました。そして今わたしたちはほぼ毎日のように同じような映像を目にしています。もうひとつのプレスト、さらにまたひとつのプレストを。そしてわたしたちは辿るでしょう、その町にいたもうひとりのバルバラを、さらにまたもうひとりのバルバラの足跡を。